博物館調査研究レポート

2018 年 UMAC マイアミ第 18 回年次大会への参加

京都外国語大学・国際文化資料館館長　南 博史

ICOM-UMAC は 2018 年 6 月 21～24 日、フロリダ州マイアミ大学 Shalala Student Center で AAMG（アメリカ博物館会議）との合同で 2018 年の年次大会を開催した。今回のテーマは、「大胆なアイデア：より良い世界に向けた変化の担い手としての大学博物館とコレクション」である。

国際文化資料館の南は、6 月 22 日にマイアミに到着し、6 月 23 日の発表 2 日目、24 日の UMAC 運営委員会に参加、25 日は博物館見学を行った。

とくに 6 月 24 日 UMAC 運営委員会では、来年の ICOM 京都大会に向けての打ち合わせにオブザーバーとして参加した。運営委員には国際基督教大学湯浅八郎記念館の福野明子さんが選出されており、ICOM-UMAC2019 京都大会開催副委員長としてこれから一緒に UMAC 国際委員会の大会成功に向けて活動を本格化させていくことになった。

国際文化資料館の京都大会での具体的な役割として、京都・大学ミュージアム連携とのつなぎ役がある。国際文化資料館も京都・大学ミュージアム連携のメンバーに加えていただいており、UMAC と連携加盟館との橋渡しができればと考える。もちろん、京都・大学ミュージアム連携にとっても、連携の底力を世界の博物館に知ってもらう好機である。

そして、6 月 25 日は博物館見学。UMAC メンバー（東京国立博物館栗原副館長、福野さん）と一緒に市内 7 か所の博物館を見学した。

マイアミの町中には博物館が大変多いことに驚いた。その中でもマイアミビーチのビスケーン湾を一望するミュージアムパークには出来たばかりであるが、アート、自然系、水族館など多様なミュージアムで構成される。背景は豪華リゾート客船というのがマイアミらしいが、有数のリゾートの中に積極的に博物館が位置付けられていることに驚いた。また、マイアミの海岸沿いの街並みを歩いてみた。アールデコの建物が保存された地区、建物群を紹介するミュージアムもあり、歩いても楽しめるまちでもあった。

(c) Kyoto University of Foreign Studies, Kyoto Junior College of Foreign Languages All rights reserved. http://www.kufs.ac.jp/

さて、現在の UMAC 運営委員会委員長は、ポルトガルのリスボン大学自然史科学博物館の Marta C. Lourenço さんである。エネルギーの塊のような彼女のリーダーシップが UMAC の活性化に大きな影響を与えている。運営委員の福野さんも英語が達者で、委員長とのコミュニケーションも素晴らしく、京都にとって大変頼もしいコンビである。ちなみに福野さんのご実家は京都とのこと。来年はその福野さんと一緒に力をあわせて世界の大学博物館からのお客さまを迎えすることになる。

一方、国際文化資料館は、数少ない日本から参加する UMAC 組織メンバーでもある。とくに開催が大学のまち京都ということで、学生ボランティアのとりまとめを中心にお手伝いしている。ICOM の目標から分かるように、博物館が世界平和にどのように役立てるかという課題は、京都外国語大学の建学の精神と一致するところであり、本学こそが世界の大学博物館をお迎えする中心にならないといけないと考えている。

国際的学芸員の育成を看板にしてきた本学の学芸員資格課程と一緒に ICOM 京都大会の成功に向けて力をあわせていきたい。



Miami Art Deco Welcome Center


UMAC 運営委員会



UMAC 会場の様子


マイアミ大学 Shalala Student Center

(c) Kyoto University of Foreign Studies, Kyoto Junior College of Foreign Languages All rights reserved. http://www.kufs.ac.jp/



ミュージアムパークからビスケー湾を望む

(c) Kyoto University of Foreign Studies, Kyoto Junior College of Foreign Languages All rights reserved. http://www.kufs.ac.jp/